

羽田沖浅場海域に放流する大田区立大森第一中学校の生徒ら

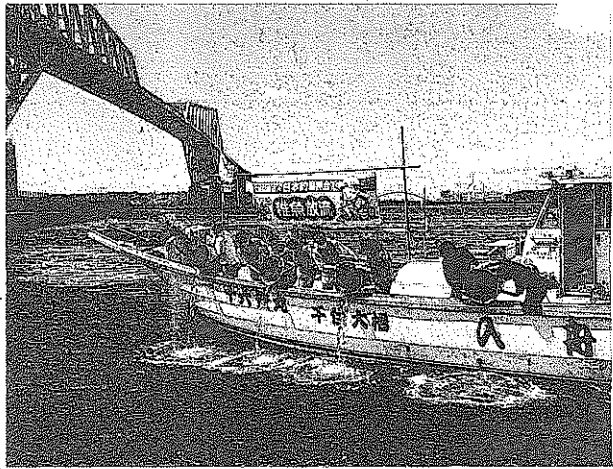
東京組合
日釣振東京
遊漁船組

東京湾にカサゴ稚魚

中学生65名が放流を体験

(公財) 日本釣振興会
東京都支部 (常見英彦支
部長) は、東京湾遊漁船
業協同組合 (飯島正宏理
事長) の協力を得て9月
6日(火)、カサゴの稚魚
合計3万尾を東京湾奥の
海域に放流した。

稚魚は愛知県産で、
(公財) 神奈川県栽培漁
業協会を通じて購入した
もの。輸送に8時間かけ
て放流するカサゴを積載
したトラックが午前8時
前に東京・大森の船宿「ま
る八」桟橋に到着。早速、
同組合員が手際よく放流
する3万尾のうち、30
00尾にタグ打ちを行っ
た。タグ打ちは、その後



日釣振東京都支部は若洲海釣り施設前に放流

の追跡調査などで、生育
状況等を確認するために
行われるもので、今年は
「赤色」で年号が記入さ
れている。この日は9時ごろ、大
田区立大森第一中学校の
1年生65名が桟橋に到

着。同校の生徒たちは総
合学習、社会体験の一環
として毎年放流に協力を
してきたが、昨年は
新型コロナウイルス流行
の影響で参加が見送ら
れ、今年は2年ぶりの参
加協力となった。

桟橋に集合した生徒を
前に組合員から今回の放
流について説明があり、
続いて、同支部の常見支
部長が、設立から52年目
となる日釣振が取り組ん
でいる放流や清掃など主
な活動や放流の意義につ
いて話した。

このあと、生徒たちは
カサゴのタグ打ち作業の
見学や体験、水槽内の稚
魚の観察などを行った。

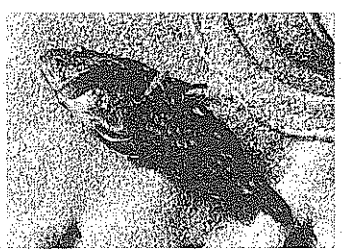
次に、生徒たちはトラ
ックからバケツリレーで
稚魚を桟橋に集結した釣
り船に運び込み、65名全
員がライフジャケットを
着こんで釣り船6艘に分
乗して出船、羽田沖へ向

かった。10時前には羽田
沖浅場海域に到着。合図
を受けて一斉に稚魚2万
尾を放流した。

また、別の1艘は日釣
振東京支部のメンバーを
乗せ、東京ゲートブリッ
ジのある若洲沖に向か
い、1万尾を放流し、こ

の日の作業を無事終了し
た。

同組合の飯島理事長は
「コロナ禍で昨年は学校
の参加協力が見送りと
なり、今年はどういう形
で実施できるか不安もあ
りましたが、学校側の協
力もあって2年ぶりに参
加してもらったことがき
ま



した。海のある地元大田
区の子どもたちには、こ
うした機会に身近にある
東京湾についての理解も
深めてもらい、豊かな東
京湾を守り、育てていく
という意識をもってもら
えればうれしい」と語っ
た。

挨拶する常見英彦支部長

標識のタグを打った稚魚